

ボディケア・リフレクソロジー市場に関する調査を実施(2017年)

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内ボディケア、リフレクソロジー市場の調査を実施した。

1. 調査期間: 2017年3月～5月
2. 調査対象: ボディケア、リフレクソロジーを提供している企業、及び関連団体等
3. 調査方法: 当社専門研究員による直接面談、電話・FAX・郵送によるヒアリング、ならびに文献調査併用

<ボディケア、リフレクソロジーとは>

本調査におけるボディケアとは「人間の体に触れ、働きかけ、あるいは反射によって働きかけることによって、癒しを与えたり、ストレスを解消するなどを目的とするサービス」と同義とする。このようなサービスでは、マッサージという呼称を通称として用いることがあるが、マッサージは国家資格者(マッサージ師)のみしか施術を行えないことから、本調査では有資格者に限らずボディケアを行うサービスを対象としている。

またリフレクソロジーとは足裏にある特定のゾーン(反射区)を刺激することにより、血行を促進し、身体の新陳代謝を活発にさせることで健康増進や頭痛・肩こり・腰痛などの身体の不調を解消する施術療法であり、本調査ではこうした施術療法を行うサービスを対象としている。

【調査結果サマリー】

◆ 2016年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は

前年比 101.2%の 1,093 億円とやや鈍化しながらも堅調に推移

2016年の国内ボディケア・リフレクソロジー市場規模は事業者売上高ベースで、前年比 101.2%の 1,093 億円であった。主要企業の業績は、2016年については成長鈍化、または縮小傾向であるところが散見される。市場の大勢を占める小規模事業者の業績は、2015年調査時と比べると回復傾向にある。

◆ 施術メニュー多様化による客単価の上昇

ボディケアやリフレクソロジーといった単体メニューの提供から、眼精疲労ケアや肩甲骨へのアプローチなど多彩な施術メニューを取り揃える動きが活発化した。ベーシックな施術メニューにオプションとすることで、より顧客の不調改善を実感させる提案となっている。こうした提案によって有力企業では客単価が上昇傾向にある。

◆ 2017年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は前年比 101.0%の 1,104 億円を予測

2017年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は、底堅さのある一方で伸び率は鈍化し、前年比 101.0%の 1,104 億円を予測する。大手企業および成長企業による出店意欲は高いが、人材確保は依然として大きな課題であるとともに、市場に飽和感がみられるなか、積極的な出店を行うことの出来る事業者は限られるものとみる。一方で、多彩な施術メニューによる客単価の上昇は、今後も市場に好影響を与えることが期待される。

◆ 資料体裁

資料名：「2017年版 リラクゼーション・温浴ビジネスの実態と展望」
 発刊日：2017年5月31日
 体裁：A4判 468頁
 定価：120,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地: 東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長: 水越 孝

設立: 1958年3月 年間レポート発刊: 約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL: 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. ボディケア・リフレクソロジー市場の概況と予測

2016年の国内ボディケア・リフレクソロジー市場規模は事業者売上高ベースで、前年比101.2%の1,093億円であった。主要企業の業績については、2015年は堅調であったものの、2016年は成長鈍化、または縮小傾向であるところが散見される。一方、市場の大勢を占める個人経営を含む事業者や、運営店舗は、2015年調査時と比べると業績は回復傾向にある。

従来は平均価格(3,000円/30分目安)型店舗が主流であったが、ここ数年で低料金によるサービス提供の店舗が増え、平均価格型店舗からの顧客の一部を獲得したとみられる。こうした料金体系は新たな利用者を開拓し、市場の裾野を広げたものと考えられるが、一方で、低料金によるサービス提供型事業者の中には僅か数年で淘汰された事業者も存在する。

また、昨今では施術メニューの多様化がみられ、ボディケアやリフレクソロジーといったベーシックな施術メニューに眼精疲労ケアや肩甲骨へのアプローチなどをオプションとすることで、より顧客の不調改善を実感させる提案となっている。こうした多彩な施術メニューによって有力企業では客単価は上昇傾向にある。

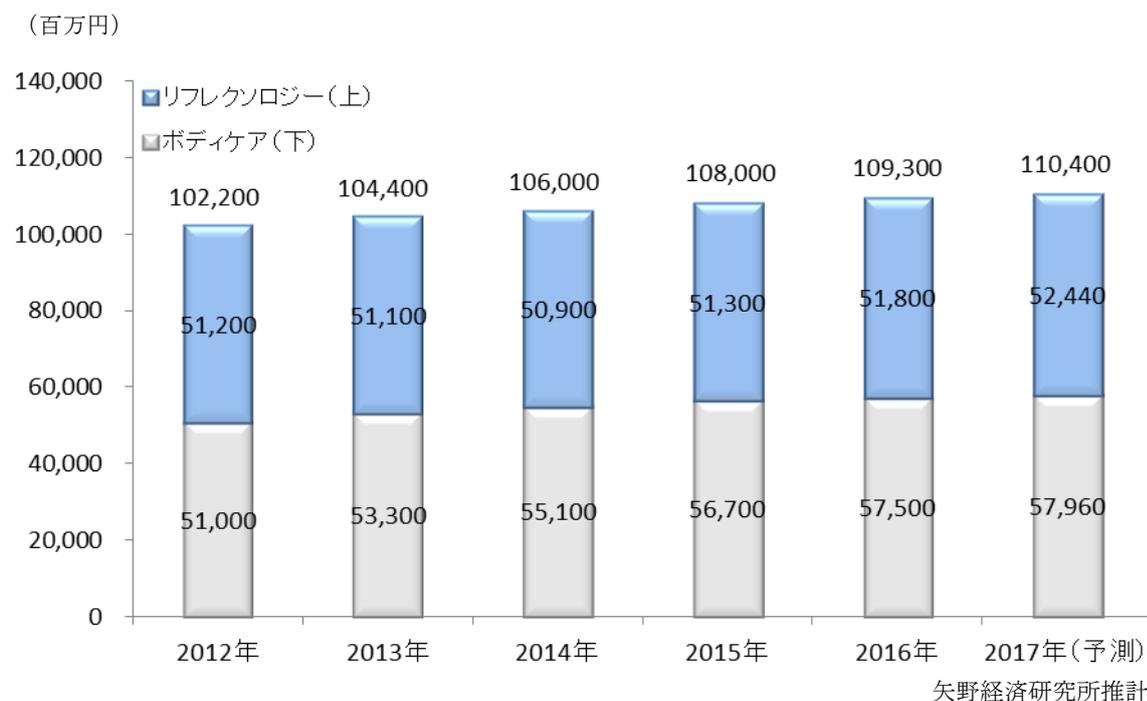
2017年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は、底堅さのある一方で伸び率は鈍化し、前年比101.0%の1,104億円を予測する。大手企業および成長企業による出店意欲は高いが、人材確保は依然として大きな課題であるとともに、市場に飽和感がみられるなか、積極的な出店を行うことの出来る事業者は限られるものとみる。

一方で、多彩な施術メニューによる客単価の上昇は、今後も市場に好影響を与えることが期待される。

2. ボディケア・リフレクソロジーにおける課題

当該市場における課題の一つは、施術を行なうセラピストの人材不足の問題である。これは大手企業であっても例外ではなく、採用においては募集人員数さえ満たせないケースもある。近年、採用を取り巻く環境も改善し、当該業界でも、大手企業を中心に新卒採用を強化する動きが強まっているものの、人材確保は難しいのが現状である。この背景にはリラクゼーション業に対する志望者そのものが減少していると推測される。こうしたなか、待遇改善の動きも一部みられるが、企業によりばらつきもみられるようである。

図1. ボディケア・リフレクソロジー市場規模推移



注1. 事業者売上高ベース

注2. 鍼灸、指圧、マッサージ、柔道整復などの国家資格を有して行う治療・施術を除く

注3. 2017年は予測値